

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年6月12日発行 No.39

『初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。』
(創世記1:1~3)

<6月の第2週目は…「花の日」礼拝!! 聖ニコラス天使園の花の日礼拝に出席しました!!>

5月の第2週目の日曜日は母の日、6月の第3週目は父の日。お店に行くとそれぞれの記念日に合わせたセールなどが行われていますが、ではここで問題!! 「6月の第2週目は何の日でしょうか?」 …答えは「花の日」です!! 調べてみますと、1856年にアメリカはマサチューセッツ州の牧師チャールス・レオナルド博士が、一年中で花の豊富なこの季節に、教会に花を飾り神の恵みを覚える日として6月の第2日曜日に特別礼拝を行ったのが起源と言われています。この日、私は、最も近い聖公会関係の児童福祉施設である聖ニコラス天使園からお招きを受け、花の日礼拝に参加してきました!! 子供たちが胸の前に手を当てて静々と入堂する姿や、大きな目をくりくりさせながらお話を聞いている様子、また練習した歌や製作物を発表する時の元気な笑顔を見ながら、改めて約150年前にレオナルド氏が提唱した命の輝き・生かされている喜びを強く感じる事が出来ました!! 季節は春から夏へと移り変わり、KIUキャンパス内に生えている緑や訪れる小鳥や虫たちの勢いも増してきているのを感じます。この時こそ、与えられた命に対して、今一度、喜びと感謝を覚えながら、共に歩みを進めていきたいですね!!



お部屋に飾られた色とりどり花たち



子供たちの大きな歌声



あっという間の1時間でした

<六甲アイランドの繋がりの中で…。大きなお父さんと小さな娘さんがチャペルを訪問!!>

先週末の穏やかな午後、KIUチャペルはお客様を迎えました。同じ六甲アイランドにある西日本ルーテル教会 愛ランドキリスト教会で牧師をされているシグルソン・レイブールさんとその娘さんです。チャペルを見ていただきましたが、パイプオルガンとこの静けさに驚いておられました。教派は違うけれど同じキリスト教、何より同じ六甲アイランドに位置する同労者として、これからもお互い協力できる事があれば良いですね!! ちなみにこの教会では今週末にフィンランドからミュージシャンを招いてコンサートを行うそうです!! チラシをホールに掲示していますので関心のある方はどうぞ!!



KIUの昼礼拝にもぜひどうぞ

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

6月5日(月) テーマ:「やりたいことリストを作ってみたら」 井上 由里(リハビリテーション学部)

私は大学で勤務する傍ら、週に一度、病院でも仕事をしている。病院や高齢者施設と言われると寝たきりの患者さんをイメージする人も多いかもしれないが、実は元気な高齢者も多く、様々な触れ合いの中で新しい刺激や改めて物事を考え直す機会が多く与えられる。先日も「あなたの夢はなに？」と聞かれて、すぐに答えられない自分がいた。そんな小さな機会から「やりたいことリスト」を作成してみた。初めは10個程しか思いつかなかったが、数を増やしていくと普段意識しない自分の一面や、これまでの歩み、また自分はこれからどう歩みたいのかを確立する事ができた。書いて形にする事で、取り組みや達成のきっかけが生まれる。是非お勧めしたい。

6月6日(火) 音楽礼拝 伊藤 純子(オルガニスト)

今回も30名近い礼拝出席者が与えられ、伊藤先生による聖歌196番のアレンジ等に耳と心を傾けました!! 次回は6月20日(火)!! ついに今年度初の聖歌隊による奉唱を行います!! ぜひご出席下さい!!

6月7日(水) テーマ:「目は口ほどにものを言う」 成瀬 進(リハビリテーション学部)

私たちは雑踏の中でも知っている人と知らない人を無意識の内に識別・判断できる力を持つ。これは成長と共に新しい「顔」を学習し、人間関係に大きく寄与する「見分ける力」を高めていく事でもある。また日常の生活で交わされるコミュニケーションでは、言葉が中心のように見えて、その実、他の力も大きく作用している。特に「目」の果たす役割は、その存在が諺などに多く引用されている事からも分かる。人間は生後2カ月~10週間ぐらいで人の顔(主に母親)を識別できるようになるそうだ。電子機器などの発達で、人の顔を見てコミュニケーションを図る事が減って来ていると言われる現代社会。今一度、相手の目を見る機会を大切にしたい。

6月8日(木) テーマ:「やさしい日本語って何？」 瀬古 悦世(経済学部)

私の専門は日本語教師だ。「では英語が上手なんですね」と言われる事が多いが、自分では英語がそんなに堪能ではないと思う。調べてみると英語を母国語とする人は約10億人、学習している人を含めても約30億人で、世界人口の半分にも満たない。ではなぜ英語が国際言語なのか? 実は、母国語の異なる者同士の会話で英語が使われる事が多いそうだ。では日本語はどうだろう? これまであまり外国人を受け入れて来なかった日本は、外国人に日本語で話す機会が少なかったと言える。しかし昨今は、外国人旅行者の増加に伴い、優しい日本語(子供と話すような要領で分かりやすい言葉に言い換える)が重要になってくる。「自分は英語が出来ないから留学生とは話せない…」と壁を作るのではなく、小さな勇気と優しい日本語で、自分の日本語をチェックしながら、コミュニケーションの幅を広げてみてはどうだろうか?

6月9日(金) テーマ:「一輪の花の持つ力」 野間 光顕(チャプレン)

先日、不注意から礼拝で使われる式文にミスを出してしまった。「あの時もう少しこうしていれば…」と罪悪感と自己嫌悪が混ざったような暗い気持ちになり、キャンパス内のベンチに座ってため息をついていると、ベンチの脇に咲く小さな花が目にとまった。名前も知らない小さな花。風に揺れるその花をじっと見つめていると、心の中に聖句が浮かんだ。『…野の花を見よ。働く事も、紡ぐ事もしないが、神はこのように装って下さる…。』6月の第2日曜は「花の日」として祝う教会が多い。19世紀半ばにアメリカから始まったこの習慣は、一年中で最も花の豊富なこの季節に、神の恵みの象徴として教会に花を飾り、与えられた命の輝きと美しさを覚えながら、感謝の祈りと賛美を奉げる。私たちも与えられている恵みを数えつつ歩みたい。(文責:野間 光顕)